

日本科学未来館イベント「こどもからみる不思議世界探求」
にご参加いただいた皆様へ

2024年8月19日-23日に上記イベントにご参加いただき、誠にありがとうございました。多くのお子さんとその保護者の方に参加協力いただき、大変貴重なデータを得ることができました。心より感謝いたします。

ここでは鶴見の担当した「わたし」の身体を把握する」というテーマの実験結果について、基礎的なデータ解析が終わりましたので、参加された皆様全体の傾向について報告します。

研究実施者：鶴見周摩(北海道大学)

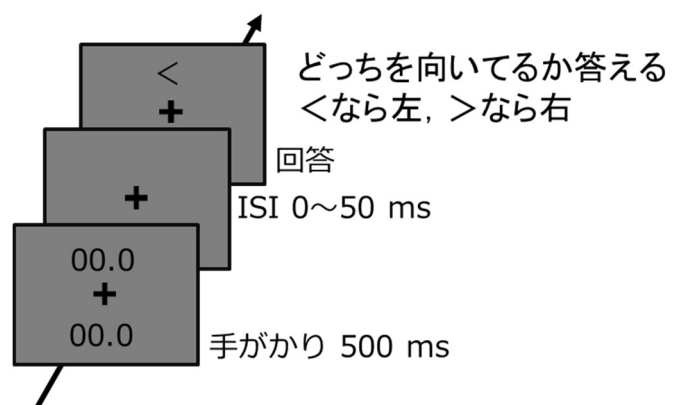
E-mail：stsurumi@let.hokudai.ac.jp

研究統括者：山口真美(中央大学)

研究概要

どのくらい自分の身体を把握できていますか？体重や身長、体温やBMI…など数値として計測できる身体指標はいくつもあります。中でも体重や身長は生まれてから今に至るまで多くの人の関心対象ではないでしょうか。太りたくない、筋肉をつけたい、と思う人にとって体重はかなり意識してしまうと思います。例えば、自分の身体に満足していない人では理想の体型や理想ではない体型の写真に注意が向いてしまうことが報告されています(Cass, Giltrap, & Talbot, 2020)。

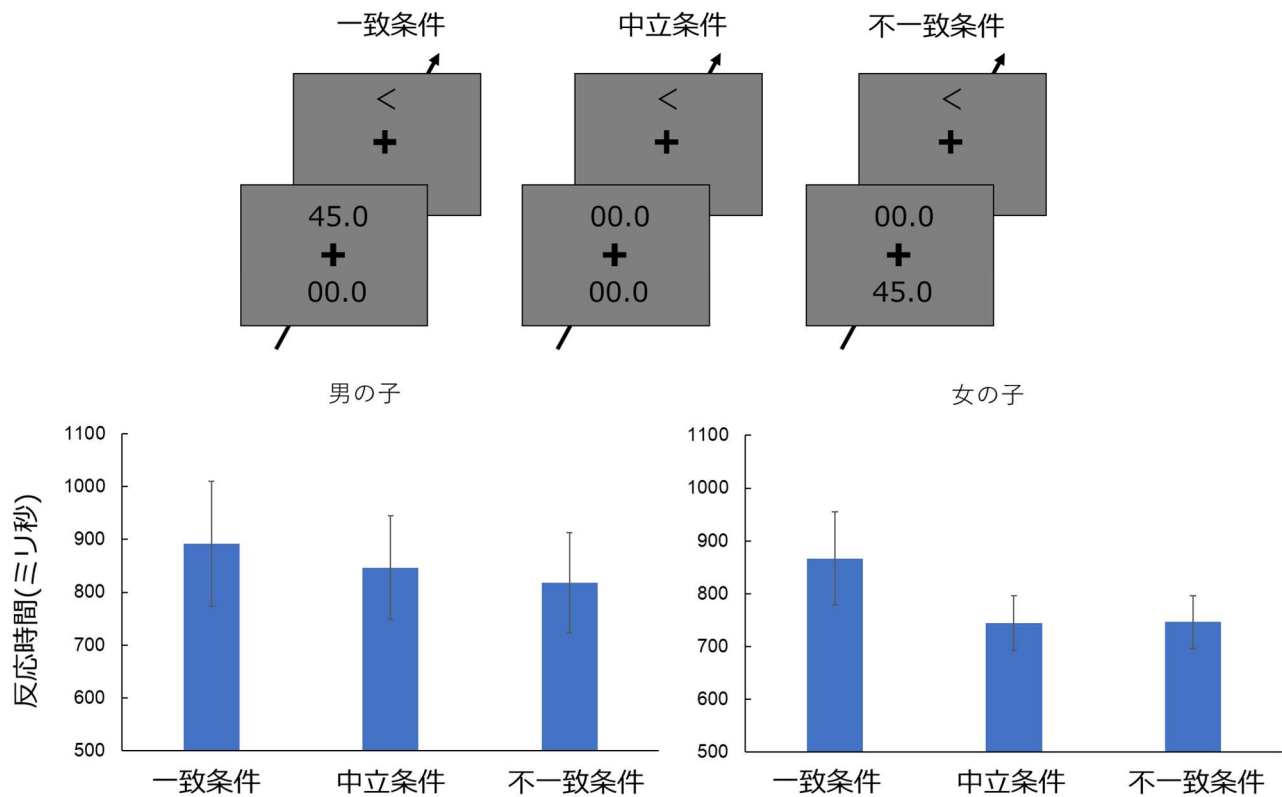
こうした身体指標にどのくらい我々が敏感になってしまうのか、今回この点を調べるために課題を実施させていただきました。具体的には、画面の上下どちらかに呈示される矢印(<か>)の方向を回答していただきました。この標的の数秒前(0~50ms)に、最初ご自身で回答いただいた体重の数値か全く関係のない数値(手がかり)が提示されます。これまでの研究から、注意を引き付ける情報(例えば顔写真や怖い画像)が標的の直前に出ると(一致条件)、その呈示された位置に注意が向くことで、その位置に続いて現れる標的が何であったかを素早く判断できることが示されています。一方で、手がかりと標的の位置がずれていると(不一致条件)、判断に時間がかかると言われています。この標的を回答するまでにかかる反応時間を計測します。



結果

途中経過になりますが、全体としてみるとどの条件でも反応時間に大きな差はありませんでした。しかし、男女で結果を分けてみると、女の子では一致条件の反応時間が他の条件よりも長かったです。一般的には注意を捕捉するものが標的と同じ位置に現れると反応が短縮されますが、反対に遅くなること

もあります(復帰抑制)。これは一度注意が向いたところを抑制することで、反応までに時間がかかると言われており、女の子グループではこの復帰抑制がみられた可能性があります。いずれにせよ、体重による注意捕捉効果には性差があるのかもしれませんが。



以上から、今回のイベントのデータは**自身の体重に敏感であるのには性差がある可能性**を示すものといえます。ただし、個人が持つ身体に対する態度によっては体重に注意が捕捉されるかもしれません。例えば、身体の変化が著しい小学生や中学生の性別、年齢を細かく分析していくことで身体による注意捕捉効果がみられる可能性があり、さらなる研究が必要になると考えています。